
ニュース



SUPERCOMPUTING '97 SAN JOSE報告

ACM SIGARCH, IEEE Computer Societyによるハイパフォーマンスコンピューティング技術に関するコンファレンスであるSUPERCOMPUTING '97が、アメリカはカルフォルニア州サンノゼで11月15日から21日の6日間にわたり開催された。第1回目の開催が1988年であるから、今回は10回目となる。参加者は約5000人におよび、昨年におとらず大規模なものとなった。

プログラムは主に、テクニカルプログラム、チュートリアル、エキシビジョンの3つに分かれて実施された。

テクニカルプログラムでは、招待講演や、テクニカルペーパー、パネルなどが行われた。とくに、19日に行われた招待講演では、ハードウェアの大御所であるスタンフォード大学のJohn L. Hennessy教授が「Perspectives on the Architecture of Scalable Multiprocessors: Recent Development and Prospects for the Future」というタイトルで、またソフトウェアの大御所であるライス大学のKen Kennedy教授が「Programming Support Software for High Performance Computers」というタイトルでそれぞれ講演し、立ち見ができるほどの盛況ぶりであった。テクニカルペーパーでは、採用された57件のうち3件が日本からのものであり、諸外国に劣らぬ研究成果が発表されていた（うち、1件は著者が関わっているNinfプロジェクトのものである。）。また、傾

向としてはハードウェアに関するものが少なく、ソフトウェア分野、とくにAstrophysics and Hydrodynamics, Computational Fluid Dynamics, Molecular Dynamicsなどアプリケーションに関する論文が多かった。今大会では、Techniques for Metacomputingというタイトルのセッションができたことも新しいことの1つであった。

チュートリアルでは、性能評価手法、I/O、言語などさまざまな分野に関する16件が行われた。

エキシビジョンでは、リサーチ、ポスター、インダストリーの3種類の展示が行われた。その中でもインダストリーエキシビジョンは大規模に行われ、SGIやIBM, SUNといった、日本でもおなじみのベンダが、各社の並列マシンを展示していた。とくに目を引いたのはTERAのマシンである。このマシンはマルチスレッドアーキテクチャを採用した数少ないスーパーコンピュータで、見た目も美しく、見学者たちの興味を引いていた。

今大会で全体を通して多く目にしたのは、クラスタ技術に関するものである。ハイパフォーマンスコンピューティングは、専用の大規模な超高性能並列マシンから、安価なWSやPCを高速なネットワークで接続し、それ全体を1つの高性能並列マシンとして扱うクラスタ技術へと、研究テーマがシフトしてきているように思われた。コンパックなどは、自社の展示会場に100台からなるPCクラスタを構築し、デモを実演していたし、いくつかの研究機関でも十数台からなるPCクラスタでデモを行っていた。まだ分野としては未開なところが多いので、これからが楽しみな研究テーマであろう。

次回、SUPERCOMPUTING '98は1998年11月7日から13日までアメリカはオーランドで開催される。詳しくは、<http://www.supercomp.org/>にて参照できる。また、上記URLにて、今年のProceedingsを見ることができる。

(稲木貴光 東工大情報科学科研究生/富士通(株))

会員の広場

今月は11月号についての会員の声を中心に紹介いたします。

特集「音声処理技術とその応用」に関して、次のようなご意見、ご感想をいただきました。

・特集の2章で、付録として用語の解説があり、内容理解に役立った。本誌は専門外の人が多く読むので、このような配慮を著者をお願いしたい。(匿名希望)

・日々ソフトの開発/保守に携わっている私にとっては範囲外であり、分からない所もあったが、隣接する分野として興味をもって読ませていただいた。(怡土好夫)

・最新の音声処理技術動向について全般的な概観を掴むには大いに役立つ特集内容であったと感じた。とても研究の歴史が長く、開発された多くの音声処理技術については、とても紙数の都合(制限)で学会誌程度で語り尽くせるものではないと思うが、個々の技術についてももう少し具体的な説明に踏み込んで欲しかった。用語の簡単な説明のみで内容的に濃縮されている個所が多く、具体的な処理イメージを掴むのが難しくなった点がとても残念に感じるが、研究を始める切っ掛けを掴むのにとっても役立つ特集であったと感じました。(磯野浩志)

・音声処理技術の特集では、もっと応用面での状況報告があってもよいと感じた。(匿名希望)

特別論説「ヒューマノイド-人間形高度情報処理ロボット-」に関しては、次のようなご意見、ご感想をいただきました。

・漫画の世界が一步一步現実世界に近づいているようである。できればビデオ(一部分はテレビで見たが)で見たいと思いつつ誌面の記事を読ませてもらった。(怡土好夫)

連載解説「知識の宝庫：情報処理技術者のための知的財産権」に関しては、次のようなご意見、ご感想をいただきました。

・最近の連載解説、「知識の宝庫：情報処理技術者のための知的財産権」は時宜を得た適切な企画だと思いますが、内容はタイトルの割には少々通りいっぺんすぎて、期待外れでした。「情報処理」の記事である以上、単なるうわべだけの解説ではなく、十分な問題意識を持った、掘り下げた議論が望まれます。ちょっと思いつくだけでも、

-Internetと、通信/放送、リンク問題

-free softwareの果たす役割と、問題点や考え方

-Free Software Foundationとcopy left problemと法的問題

-ソフトウェアのコピー問題とキャッシング/テンポラリコピー

-database保護論と最近のWIPOの議論

-私的コピーおよびfair use問題

等等、学界をはじめ情報技術に関わる人間が、関連する問題を整理/把握し、立場を明確にできるようにしておくべき事項はたくさんあると思います。この関連の議論でいつも感心させられるのは、Comm. ACMの“Legally Speaking”のコラムです。本年の5月号にも“The Never-Ending Struggle for Balance”の記事がありましたが、望まれるのは、このように“Never-ending

struggle”というようなレベルの視点や見識だと思われる。我が情報処理連載記事の著者や編集担当者は、これらの点に関してどのように考えておられるのでしょうか。ACMと同レベルを望むのは、我が国の層の薄さからしても無理なのかも知れませんが、問題意識だけはきちんと持っているべきだと思います。著者の方にもこれらの点をお伝えいただくとともに、「情報処理」の内容をより充実したものとするために、ボランティアワークで大変だとは思いますが、編集担当の方々の一層の奮起をお願いしたいと思います。(棟上昭男)

「情報処理学会倫理綱領」に関しては、次のようなご意見、ご感想をいただきました。

・いつもは広告が載っている頁にこのようなものがあり、その趣旨が掴めない。改めて会員に学会倫理を伝えるのであれば、もっと目立たせる必要がある。また単調な紙面であり、会則でも読んでいる様である。もしかしたら、広告主からの急なキャンセル？(怡土好夫)

・今月号から(?)倫理規定がついたようですが、この倫理規定の内容を見ながら日本の情報処理分野の現状を少し考えてしまいました。本倫理規定については作成者ご自身のコメントが学会誌1996年8月号に掲載されましたが、どうも自画自賛されているようにすばらしい規定には、私には見えません。なぜか? というと、「すべからず」論ばかりで、私たち学会の会員がどのような倫理観を持って研究や仕事に励んでいこうや! という部分がないからです。私たち情報処理学会の人間は情報処理という分野の専門家としてどのように努力しなければならないのでしょうか? また、どのような未来を思い描けばよいのでしょうか? このあたりがあまり倫理として明確に示されていない気がします。私たちが考えなければならない未来、問題などを抽象的な言葉でもよいからまず示すべきではないか? と私は考えます。どこかの外国の学会ではないですけど、「情報処理技術の進歩と発展と啓蒙を通して人類の明るい未来を築く!」くらい言って欲しいものです。

(大野 晋)

その他に以下のご意見、ご要望が寄せられました。

・先月中高校における情報処理教育の特集が終わったらしいのですが、一つ気になっていることがあります。それは「情報処理技術を使って教育する」と、「情報処理技術を使えるように教育する」と、「情報処理技術者としての基礎を教育する」ことが一緒になっていたように思えることです。もちろん、この3つは違うことですが、こうして3つを並べてみれば違いは明白だと思います。そして、この3つは分離して議論すべき問題です。世界各国の情報処理分野の追い上げを考えると、1つめ、2つめの問題を考えるとともに3つめの問題についてもっと議論されるべきなのではないでしょうか? これからの日本の若者に必要なのはWindowsやExcelやWordを使える技術ではなく、情報処理が当たり前になった社会で生き抜く技術であると思います。そこには法律もあるでしょうし、数学もあるでしょうし、社会学の素養も国語に関する素養も必要になるでしょう。もう少しこのあたりに光を当てて議論

する機会が欲しいと思います。そのためには、一度くらい公開の電子メールでの討論に学会誌から持ち込んでもよいのではないのでしょうか。(大野 晋)

・このたび、この実務屋も会社のお金で海外に調査に出してきました。海外といってもインド、シンガポール、韓国といった地域です。この地域を見てきて思ったのは、各国とも情報処理分野を次世代の課題に据え、官・産・学(順不同)が協力して(身になっているかどうかは別にして)推進しようとしていたことでした。そして、そこで出てくる用語はCMM, SPICE等々、アジアの国にも関わらず、メイドインUSAの用語ばかり。日本のことなど、全然考えていませんでした。で、我が国の現状はどうかというと、あまりにもかけ離れた産・学の興味の方向など、うれしくなってしまった今日このごろです。(変な文章ですね。)実務屋からすると、CMMですらソフトウェアプロダクトの

品質向上には不足と考えるのですが、SEIもあつと言うようなソフトウェアの構築に関する実務的な研究がこの情報処理学会から出ないものでしょうか? それとも、実務屋は野蛮だ! と興味の赴くままに「なんとかのなんとかにおける理論の考察」を進めることの方が日本の情報処理技術にとって大事だとお考えなのではないでしょうか? ほかの学会の話で申し訳ありませんが、最近のソフトウェア科学会の会誌で北陸先端大の落水氏が巻頭言で言われている「役に立つ話」と「ためになる話」の接点のとり方が今の情報処理学会での一番の問題なのではないのでしょうか? と私は思います。(ソフトウェア科学会は小学会ですが、この巻頭言は私たちみんなが見て心に留めておく話題だと思い、話を出させていただきました。)本気で「銀の弾丸」を考えて下さい!(大野 晋)

(本欄担当 塚田恭章/書評・ニュース分野)

編集室

ソフトウェアの研究・開発に携わる者にとって、バグに悩まされない生活を送ることは夢ではないでしょうか。誰しも徹夜でバグと奮闘した経験はあるはず。「並行処理におけるプログラム試験」の特集に取り組みうとした動機は、皆そうは感じていても、現状の最善の方式・方法を知る機会がないのではと感じたことです。

そもそもこの忌まわしきバグを退治する方式についても、バグを発見するための試験(testing)、修正方法を示すデバッグ(debugging)、形式的な解析を行う検証(verification)を正しく理解し使っている方は少ないのではないかと思います。今回はこのうちソフトウェア開発者から使用者まで最も広く使われている試験技法について最新の動向を紹介

しています。バグはプログラムが仕様通り動作しないことにより発生しますので、仕様から自動的にプログラムを作成する技術が確立できていない現状では、必然的にバグは発生するのです。つまり、プログラム=バグの集合と日々取り組んでいるのが我々の姿であり、少しなりとも楽な生活を我々に提供してくれるのが試験技法というわけです。とくにこの特集では陳腐化したものにならないように並行処理プログラムにターゲットを絞り、しかも特定のソフトウェア分野に偏らないように解説をカバーしたつもりです。

最後に本特集に積極的に取り組んでいただいた著者の先生方、読者、事務局の方々に感謝致します。

(本特集担当 落合民哉/ソフトウェア分野)

事務局だより

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、金融機関の破たんなど、景気の不況感が蔓延し、経済的な元気をだすには努力が必要な年でした。皆様方にはいかがお過ごしでしたでしょうか。

一方、学会活動も社会への貢献と対応をメインテーマに、変革をしていこうということで、学会誌については、石田晴久編集長を招き、本年4月号から新編集体制の会誌を発行するべく作業を進めております。その第一ステップとしてここにお届けした1月号から3月号までは、試行を兼ねて大きさをA4判化し会告・全国大会プログラムを別冊化して発行することとなりました。

論文誌については、すでにお知らせしたように、メタレビュー制度、ゲストエディタ制度、研究会推薦論文制度など、学際領域や実務の有用論文など広く投稿と採択ができる改革が行われています。

研究会については、新年度から1つまたは複数の研究会が、独自または共同責任で論文誌を発行できること、研究発表会の報告資料を当日は無しとし後日査読され採択された論文誌を発行できるなど、研究会の自立性を尊重した活動ができる

ようになります。

全国大会については、会員の大多数が参加できるよう招待・特別講演、パネル討論を充実していくこととしています。

これら有用な知的資産をはじめ、活動計画などの情報発信を拡大してゆくために、WWWの機能増強と発信する情報の充実と順位づけなどを積極的に推進することとしています。

事務局では、現在使用中のLANの処理能力が限界に達してきたため、新しいLANを置換え導入し、会員情報、研究会情報の両システムを主に職員直轄により再開発して、学会活動の進展を支えてゆくこととしております。

学会活動を活発化してゆくためには、学会運営の透明度をできる限り高めつつ活性化し、多種多様な学会の諸活動に、多くの会員の方々が積極的に参加できる環境を整えていくことが一番大事なことを考えています。

本年も学会、事務局への暖かいご指導、ご支援と、厳しいご意見、改善提案をお願いして、新年のご挨拶とさせていただきます。

(飯塚浩司/事務局長)

論文誌1月号掲載論文一覧



(Vol. 39 No.1)

(掲載順, 所属は現在のものを記載)

- 取引手数料を考慮したオンライン為替交換アルゴリズムの効率解析
檀浦詠介, 櫻井幸一 (九大)
- 分散合意のための1ビットメッセージ最適早期停止アルゴリズム
依田邦和 (日本IBM), 岡部寿男, 金澤正憲 (京大)
- 前編集結果を利用した前編集自動化規則の獲得
山口昌也, 乾 伸雄, 小谷善行, 西村恕彦 (農工大)
- Neural Net Pattern Recognition Equation for Stereoscopic Vision
Yasunari Yoshitomi (Miyazaki Univ.),
Tetu Kanda (Nintendo), Teturo Kitazoe,
Tomohiro Shii (Miyazaki Univ.)
- 超3角形BRepにおけるEdge-basedデータ構造と形状演算アルゴリズム
荒川佳樹 (郵政省), 山口富士夫 (早大)
- 距離尺度に基づく形状表現法
徳増真司 (神奈川工科大),
野中士郎, 仁尾 都, 原島一郎, 松本輝夫 (日立)
- 編物における紐状態表現と編み上がり模様生成の一手法
伊藤裕一朗 (日立), 山田雅之, 世木博久, 伊藤英則 (名工大)
- C¹連続なNURBS境界Gregoryパッチによる複雑な位相を持つ曲線メッシュの接続法
今野晃市 (リコー), 千代倉弘明 (慶大)
- SGML文書の論理構造変換手法
酒井乃里子 (NEC), 高須淳宏, 安達 淳 (学情センター)
- 分散オブジェクト指向システムにおけるメッセージのトレース
久保田稔 (NTT)
- 潜入フォールトを考慮した不完全デバッグモデルと適合性評価
山田 茂, 三木貴史 (鳥取大)
- 線形フィルタのアプローチによる呼種別ATMセル損失率近似モデル
鳩野敦生, 川北謙二 (日立)
- 協調作業と個人作業を融合するオブジェクト指向ネットワーク作業環境
越智 剛 (エフエム), 松田 昇, 岡本敏雄 (電通大)
- 漢字熟語の類推を支援する辞書システム "KIDS-II" の構築
越智洋司, 矢野米雄 (徳島大), 林 敏浩 (佐賀大)
- VR的交通環境シミュレーションシステム
向井利光 (ビジュアルサイエンス研究所)

<テクニカルノート>

- 周期境界要素を持つブロック5重対角行列群へのRotated Alternative LU分解法の適用について
伊藤祥司, 張 紹良, 名取 亮 (筑波大)

会告体裁の変更について

本号より会告を別冊化し, 体裁および掲載順を一部変更しましたのでお知らせいたします。みなさまのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。ご意見等がありましたら学会誌編集係までご一報ください。

本誌掲載

- 当月号掲載論文一覧
- IPSIカレンダー
- 人材募集
- 有料会告

付録 (会告) 掲載

- 1) 会告目次
- 2) IPSIカレンダー
- 3) 参加者募集
- 4) 論文募集
- 5) その他のお知らせ
- 6) 支部だより
- 7) 会議案内 (協賛・後援)
- 8) 理事会報告
- 9) 採録原稿
- 10) 新規入会者
- 11) 各種申込書

IPSJカレンダー

行事名	会場名	開催日	参加締切	論文/応募締切	掲載頁	担当
第123回自然言語処理研究会	東京外国語大	平成10年 1月19日(月)	当日のみ		38-12 7p	研
連続セミナー97 デジタル図書館	工学院大	1月19日(月)	定員になり次第		38-11 15p	事
第114回データベースシステム研究会	岡山県立大	1月19日(月) ～20日(火)	当日のみ		38-12 7p	研
四国支部 講演会	徳島大	1月20日(火)			38-12 29p	四
The 12th International Conference on Information Networking (ICOIN-12)	Communications Research Laboratory	1月21日(水) ～23日(金)				国
第60回アルゴリズム研究会	奈良先端大	1月22日(木)	当日のみ		38-12 8p	研
第110回知能と複雑系研究会	大阪市立大	1月22日(木) ～23日(金)	当日のみ		38-12 9p	研
第109回コンピュータビジョンとイメージメディア研究会	ATR	1月22日(木) ～23日(金)	当日のみ		38-12 9p	研
ウィンターワークショップ・イン・恵那	恵那峡国際ホテル	1月22日(木) ～23日(金)			38-10 23p	研
第17回数理モデル化と問題解決研究会	奈良先端大	1月23日(金)	当日のみ		38-12 10p	研
第17回プログラミング研究会	NTT	1月23日(金)	当日のみ		38-12 11p	研
利用者指向の情報システムシンポジウム	東洋大	1月23日(金)	12月26日(金)		38-11 21p	研
北陸支部 講演会	金沢大	1月23日(金)			38-11 33p	陸
関西支部 平成9年度第2回見学会	ATR	1月27日(火)	定員になり次第		38-12 29p	西
第86回マルチメディア通信と分散処理研究会	東洋大	1月29日(木) ～30日(金)	当日のみ		38-12 11p	研
第26回グループウェア研究会	東洋大	1月29日(木) ～30日(金)	当日のみ		38-12 11p	研
第33回ヒューマンインタフェース研究会	北大	1月29日(木) ～30日(金)	当日のみ		38-12 12p	研
第76回情報メディア研究会	北大	1月29日(木) ～30日(金)	当日のみ		38-12 12p	研
第87回設計自動化研究会	情報処理学会	1月30日(金)	当日のみ		38-12 13p	研
デジタル・ドキュメント・シンポジウム '98	工学院大	1月30日(金)	平成10年 1月16日(金)		38-12 21p	研
第37回人文科学とコンピュータ研究会	高松大	1月31日(土)	当日のみ		38-12 14p	研
分散システム運用技術シンポジウム '98	東工大	2月5日(木) ～6日(金)	1月23日(金)		39-1 会8p	研
第20回音声言語情報処理研究会	日本IBM	2月5日(木) ～6日(金)	当日のみ		39-1 会4p	研
東海支部 平成9年度専門講習会	KKR	2月9日(月) ～10日(火)	定員になり次第		38-12 28p	海
Asia and South Pacific Design Automation Conference 1998 (ASP-DAC '98)	パシフィコ横浜	2月10日(火) ～13日(金)				国
第4回モバイルコンピューティング研究会	横浜ランド マークタワー	2月13日(金)	当日のみ		39-1 会4p	研
関西支部セミナー「NCの最新動向と新技術」	NTTコミュニケー ションプラザ	2月13日(金)			39-1 会15p	西
第24回音楽情報科学研究会	NTT厚木研究 センタ	2月19日(木) ～20日(金)	当日のみ		39-1 会4p	研
第77回システムソフトウェアとオペレーティング・システム研究会	北陸先端大	2月26日(木) ～27日(金)	当日のみ		39-1 会5p	研
第87回マルチメディア通信と分散処理研究会	北陸先端大	2月26日(木) ～27日(金)	当日のみ		39-1 会5p	研
第89回グラフィクスとCAD研究会	情報処理学会	2月27日(金)	当日のみ		39-1 会6p	研
インタラクティブ '98	東大	3月3日(火) ～4日(水)			38-9 26p	研
第2回ワールドワイドコンピューティング国際会議 (WWCA '98)	筑波第一ホテル	3月4日(水) ～5日(木)			38-12 22p	国
東海支部 講習会	名工大	3月6日(金)			39-1 会14p	海

行事名	会場名	開催日	参加締切	論文/応募締切	掲載頁	担当
設計教育者のためのVHDL講習会	阪大	3月11日(水) ～13日(金)	2月9日(月) 定員になり次第		38-12 23p	研
北陸支部 平成9年度北陸地区学生による研究発表会	富山商船高専	3月14日(土)			38-12 28p	陸
設計教育者のためのVHDL講習会	東大	3月16日(月) ～18日(水)	2月9日(月) 定員になり次第		38-12 23p	研
情報処理学会第56回全国大会	中大理工学部	3月17日(火) ～19日(木)			39-1 会8p	事
連続セミナー97 データウェアハウス	工学院大	3月24日(火)	定員になり次第		38-11 15p	事
アルゴリズム特許の現状と問題点シンポジウム	東京農工大	3月24日(火)			38-10 24p	研
The IEEE Third International Conference on Automatic Face and Gesture Recognition (FG '98)	Big Roof (奈良)	4月14日(火) ～16日(木)			38-8 21p	研
9th Int'l Workshop on Software Specification and Design (IWSSD-9)	伊勢志摩ロイヤルホテル	4月16日(木) ～18日(土)			38-10 25p	研
The 20th International Conference on Software Engineering (ICSE 98)	京都国際会館	4月19日(日) ～25日(土)			39-1 会16p	国
Int'l Workshop on Aspect-Oriented Programming		4月20日(月)			38-10 25p	研
Software Engineering on Parallel and Distributed Systems (PDSE '98)		4月20日(月) ～21日(火)			38-10 25p	研
Int'l Symposium on Object-oriented Real-time Distributed Computing (ISORC '98)		4月20日(月) ～22日(水)			38-10 25p	研
1998年並列処理シンポジウムJSPP '98	名古屋国際会議場	6月3日(水) ～5日(金)			38-10 26p	研
グラフィクスとCADシンポジウム	早大	6月12日(金) ～13日(土)		3月上旬	39-1 本79p	研
マルチメディア, 分散, 協調とモバイル (DICOMO '98) シンポジウム	指宿岩崎ホテル	7月8日(水) ～10日(金)		3月13日(金)	39-1 会9p	研
Asia Pacific Computer Human Interaction 1998 (APCHI '98)	Shonan Village Center	7月15日(水) ～17日(金)		1月31日(土)	38-9 29p	国
DAシンポジウム '98	遠鉄エンパイアホテル	7月16日(木) ～18日(土)		3月11日(水)	39-1 会10p	研
画像の認識・理解シンポジウム (MIRU '98)	岐阜市未来会館	7月29日(水) ～31日(金)		1月17日(土)	38-11 27p	研
オブジェクト指向 '98シンポジウム	東京都内	9月16日(水) ～18日(金)		4月10日(金)	39-1 会10p	研
坂井記念特別賞候補者の募集				1月16日(金)	38-12 6p	総
論文賞候補の論文推薦				1月30日(金)	38-12 24p	編
論文誌特集号 「分散協調支援とその応用」				2月28日(土)	38-10 27p	編
論文誌特集号 「マルチメディア通信と分散処理」				5月1日(金)	38-11 28p	編
論文誌特集号 「ヒューマンインタフェースとインタラクション」				5月29日(金)	38-12 24p	編
論文誌特集号 「人文科学とコンピュータ」				8月31日(月)	39-1 会11p	編

注1) カレンダーは本会主催・共催の行事を会告既掲載分より抜粋しています。
注2) 研究会の発表申込締切は開催日の90日前です。年間予定表および研究会発表申込書は2, 4, 8月号付録(会告)に掲載されています。
注3) 担当欄の記号は次のとおりです。研:研究会係, 事:事業係, 国:国際係, 編:編集係, 総:総務係, 経:経理係, 会:会員係,
規:情報規格調査会, 北:北海道支部, 東:東北支部, 海:東海支部, 陸:北陸支部, 西:関西支部, 中:中国支部, 四:四国支部, 九:九州支部。
各行事についての問合せ等は担当係までお願いします。
注4) 掲載頁欄の記号は次のとおりです。本:本誌, 会:会告(付録)

人材募集



●尚美学園短期大学

募集人員 助教授・専任講師または兼任講師 若干名
専門分野 情報処理, 電子音楽, コンピュータグラフィックス, マルチメディアなど
応募資格 大学院博士課程修了の方またはこれと同等以上の業績を有し, 4年制大学でも教育可能な方
着任時期 平成10年4月1日
提出書類 履歴書・教育研究業績書ほか, 研究業績のうち代表的な著書または論文の別刷, 応募者の研究業績などについて問合せのできる方の氏名および連絡先(2名), 着任後の研究計画と教育に対する抱負をまとめたもの
応募締切 平成10年2月16日
送付先/照会先 〒113 東京都文京区本郷4-15-9 学校法人尚美学園 法人本部総務部 担当 西岡
E-mail:musa1001@shobi.ac.jp Tel(03)3816-6731 Fax(03)3812-4757
その他 所在地は埼玉県川越市下松原655

●旭川工業高等専門学校電気工学科

募集人員 助手 1名
専門分野 情報工学, 電子工学, 電気工学のいずれかの分野
応募資格 (1) 情報・電子・電気工学のいずれかを専門とし, 実験指導のできる方, (2) 将来, 情報工学の分野の授業の担当ができる方, (3) 博士の学位取得に意欲のある方, (4) 高等専門学校の教育・研究, 学生指導に熱意をもつ方, (5) 年齢は25歳前後が望ましい
着任時期 平成10年4月1日
提出書類 履歴書, 業績一覧表, 主要論文別刷, 着任後の教育・研究に対する抱負, 推薦書(推薦者があれば)
応募締切 平成10年2月17日
送付先 〒071-8142 北海道旭川市春光台2条2丁目 旭川工業高等専門学校 庶務課人事係
「電気工学科教官応募書類」と朱書き書留
照会先 電気工学科 主任 本間皓治 E-mail:honma@asahikawa-nct.ac.jp Tel(0166)55-8021 Fax(0166)55-8082

●埼玉大学工学部情報システム工学科

募集人員 教授 4名, 助教授 2名
所属 工学部情報システム工学科または大学院理工学研究科先端情報システム工学講座
専門分野 アルゴリズム・データ構造, アーキテクチャ, オペレーティングシステム, コンパイラ工学, ソフトウェアシステム, プログラミング言語。なお, 情報システム工学の先端的分野に著しく寄与できる研究者, または顕著な功績のある研究者についてはとくに分野は指定しない
応募資格 博士の学位を有し, 大学院博士後期課程の研究指導のできる, 教育に熱意のある方
着任時期 採用決定後できるだけ早い時期
提出書類 自筆履歴書, 業績リスト, 主要論文別刷, 研究概要, 推薦書など
*詳細についてはお問い合わせください。詳細要項をお送りいたします。
応募締切 平成10年2月20日(必着)
照会先 〒338 埼玉県浦和市下大久保255 埼玉大学工学部情報システム工学科長 三島健稔
E-mail:mishima@ics.saitama-u.ac.jp Tel(048)858-3722 Fax(048)858-3722 http://www.edu.ics.saitama-u.ac.jp

●広島電機大学工学部情報工学科

募集人員 教授または助教授 計2名
専門分野 (1) 計算機アーキテクチャ, (2) オペレーティングシステム, (3) プログラミング言語論
応募資格 博士の学位を有し, 将来, 大学院前期課程において研究指導ができる方
着任時期 平成11年4月1日またはそれ以前の可能な時期
提出書類 履歴書, 研究業績リスト(著書, 査読つき論文, そのほかの論文), 主要論文別刷(コピー可), 教育・研究に関する抱負(1000字程度), 推薦書または本人に関する参考所見を述べるのできる方の氏名, 連絡先
応募締切 平成10年2月28日(必着)
送付先/照会先 〒739-0321 広島県広島市安芸区中野6-20-1 広島電機大学工学部情報工学科 主任教授 淡中泰明
Tel(082)893-0381 Fax(082)820-2032 「情報工学科教員応募書類」と朱書
*応募職種(教授または助教授)および応募分野を明記のこと

●会津大学（福島県立）コンピュータ工学部ハードウェア学科

募集人員 講師または助教授 2名
専門分野 (1) 音声信号処理（マルチメディア装置学講座）、(2) 電子商取引、仮想経済モデリング（コンピュータ産業学講座）
担当科目 各専門分野、プログラミング、データ構造とアルゴリズム
応募資格 大学院での研究指導が可能な方
着任時期 決定後なるべく早い時期（平成10年10月1日まで）
提出書類 履歴書、論文リスト、主要論文別刷（コピー可）（3編）、推薦書（3通）、教育／研究に対する抱負
応募締切 平成10年3月31日
送付先／照会先 〒965-8580 福島県会津若松市一箕町鶴賀 会津大学ハードウェア学科長 斎藤和之
E-mail:k-saito@u-aizu.ac.jp Tel(0242)37-2568 Fax(0242)37-2528

●九州工業大学工学部数理情報基礎講座（数学、物理、図形情報）

募集人員 助教授または講師 1名
担当科目 図形情報分野に所属し、学部では、情報リテラシー、プログラミングなどの講義と演習を担当
応募資格 (1) 博士の学位を有し、大学院における教育が可能な方、(2) 着任時期に40歳以下であることが望ましい
着任時期 平成10年10月1日までのできるだけ早い時期
提出書類 履歴書（現住所、連絡先、学歴、職歴、所属学会、学会における活動状況、賞罰など記載）、研究業績リスト（著書、学位論文、査読つき学術論文、査読つき国際会議論文、一般寄稿に分類：全著者名と頁も明記）、著書と学位論文を除く研究業績の別刷（コピー可）各1部、情報処理関連の教育実績あるいは能力に関する説明、着任後の教育と研究に対する抱負（A4判2枚程度）、推薦書1通または応募者の研究業績などについて問合せのできる方2名の氏名および連絡先
応募締切 平成10年3月31日（必着）
送付先 〒804-0015 福岡県北九州市戸畑区仙水町1-1 九州工業大学工学部数理情報基礎講座 主任 鈴木賢二
「教官応募書類在中」と朱書き書留 *応募書類は原則として返却しない
照会先 数理情報基礎講座 教授 金元敏明 E-mail:kanemoto@fluid.mech.kyutech.ac.jp Tel & Fax(093)884-3418

●早稲田大学工学部電気電子情報工学科

募集人員 教授、助教授、専任講師いずれか1名
専門分野 システム、情報に関連する分野
応募資格 着任時に博士学位取得者で45歳以下の方
着任時期 平成11年4月1日
提出書類 履歴書、研究業績リスト（学術論文、著書、国際会議、解説、その他に分類し、各々番号づけすること）、論文別刷（コピー可）各1部、これまでの研究概要および今後の研究計画と教育に関する抱負（各1000字程度、用紙任意）、健康診断書（選考が進んだ段階で提出を依頼）
応募締切 平成10年3月31日（必着）
送付先／照会先 〒169-8555 東京都新宿区大久保3-4-1 早稲田大学工学部電気電子情報工学科連絡事務室（55N2F）内
主任教授 岩本伸一 E-mail:head@elec.waseda.ac.jp Tel(03)5286-3006 Fax(03)5286-3492
<http://www.elec.waseda.ac.jp>

●NTTソフトウェア（株）

募集人員 システムエンジニア・技術営業120名（予定）
専門分野 情報・通信などの理工学分野
応募資格 平成11年3月に大学院（博士・修士）を修了見込みの方、または大学を卒業見込みの方
採用予定 平成11年4月1日
提出書類 履歴書など（下記照会先までお問い合わせください）
応募締切 定員になり次第
送付先／照会先 〒231 神奈川県横浜市中区山下町209 NTTソフトウェア（株）人材開発本部採用担当
E-mail:saiyo@hq.ntts.co.jp Tel(045)212-7611 <http://www.ntts.co.jp/>
その他 経験者募集も随時実施中です

「グラフィクスとCADシンポジウム」論文募集予告

グラフィクスとCADの応用が盛んになるにつれて、関連分野（たとえば、コンピュータビジョン、ネットワーク、芸術など）を含む、より広い視点に立って、研究を進める必要性が高まってきました。グラフィクスとCAD研究会では、年一回のシンポジウムを過去14回開催し、大きな成果を得てまいりましたが、昨年は、画像電子学会Visual Computing研究委員会と共催を行い、より大きな成果を得ることができました。

本年度はさらにSIGGRAPH TOKYO、および画像電子学会Visual Computing研究委員会と共催によるシンポジウムを下記の通り行う予定であります。活発な議論を喚起する論文の応募をお願いいたします。

*下記の募集要項は、今後変更の可能性があります。詳細は情報処理2月号付録（会告）に掲載しますのでご確認ください。

日 時 平成10年6月12日（金）～13日（土）
会 場 早稲田大学 国際会議場（新宿区高田馬場）
主 催 情報処理学会 グラフィクスとCAD研究会
画像電子学会 Visual Computing研究委員会
SIGGRAPH TOKYO

テ ー マ コンピュータグラフィクス、CAD、およびそれらに関連する分野

論文募集要項 A4用紙2枚程度の論文概要（必要に応じて図、参考文献を含む）に基づき、シンポジウム実行委員会で審査します。採択されたものにつきましては、予稿を提出していただきます。

スケジュール 論文概要締切 平成10年3月上旬
論文審査結果通知 平成10年4月上旬
予稿原稿締切 平成10年4月下旬

照 会 先 青野雅樹（日本IBM）E-mail:aono@trl.ibm.co.jp Tel(0462)73-5673 Fax(0462)73-7413

独創的先進的情報技術に係わる研究開発テーマ公募のお知らせ

情報処理振興事業協会（IPA）では、我が国のソフトウェア技術全般の水準向上に寄与することを目的として独創的先進的情報技術に係わる研究開発を実施しております。本研究開発においては、情報技術分野の独創的、先進的な研究開発の芽（技術シーズ）を発掘、育成し、それらの技術の確立を目指します。また、その成果を広く公開し、自由な利用をはかります。平成10年度研究開発テーマを大学、研究機関、民間企業等から下記のとおり広く公募いたします。

■募集テーマ： 対象とするテーマは、ソフトウェア産業や将来のソフトウェア技術の発展にとって有用な、独創的、先進的、基盤的な研究開発です。本研究開発での成果が公共の資産として広く利用でき、成果物に含まれるソフトウェアは、第三者が自由に利用できる形式で公開可能であるものとします。

■実施方法： 次の（1）もしくは（2）のいずれかの方式で研究を実施するものとします。
（1）請負契約方式 研究開発をIPAから提案者側へ発注します。研究期間は原則として3年以内とします。
研究予算は1テーマ年間5千万円以内、単年度毎の請負契約とします。
（2）研究員招聘方式 IPAに研究員を招聘して研究を実施します。研究期間は3年程度とします。
研究予算は1テーマ年間3千万円以内（招聘研究員の人件費は別途）とします。

■応募受付期間： 1998（平成10）年1月7日（水）より2月6日（金）午後5時45分まで。

■提出書類： 研究開発テーマ申請書 2部。
公募要領、申請書等資料は次の（1）もしくは（2）のどちらかの方法で入手して下さい。
（1）IPAホームページ <http://www.ipa.go.jp/> の「公報」の項目より入手できます。
（2）企業・団体名、所属、役職、氏名、住所、電話番号、FAX番号を明記し、下記問い合わせ先までE-MailもしくはFAXでご請求ください。後日郵送いたします。

■問い合わせ先： 情報処理振興事業協会（IPA） 技術センター 企画室
〒105（2月2日以降 105-0011）
東京都港区芝公園三丁目1番38号（秀和芝公園三丁目ビル6F）
TEL: (03)3437-2301（代表） FAX: (03)3437-9421 E-mail: doc@adm.ipa.go.jp

<IPAは法律に基づく通産省所管の特別認可法人です>

39巻1号掲載広告目次<五十音順>

イムカ	前付8	ソフト・リサーチ・センター	前付6
オーム社	前付4	トライテック	目次前上
科学技術出版社	表2	日本電子化辞書研究所	前付9
共立出版	前付3	日本マンパワー	前付8
近代科学社	前付5	日本理学書総目録刊行会	前付5
コンピュータコンビニエンス	前付9	培風館	前付2
サイエンス社	前付最終10	日立製作所中央研究所	表2対向
産業基盤ソフトウェア・フォーラム事務局	前付7	広島市立大学	表3
昭晃堂	前付6	山本秀策特許事務所	前付7
ソフトウェア生産技術研究所	表4		

◆広告料金表

掲載場所	色	スペース	料金(円)
表紙2	4	1	330,000
表紙3	4	1	275,000
表紙4	4	1	385,000
表2対向	4	1	300,000
前付	4	1	275,000
前付	2	1	165,000
前付	1	1	135,000
前付	1	1/2	80,000
前付最終	1	1	148,000
目次前	1	1	148,000
差込み (A判70.5kg未満)		1丁	275,000
差込み (A判70.5kg～86.5kg)		1丁	350,000

◆体裁

判型	A4判
発行部数	35,000部
発行日	毎月15日
印刷方法	オフセット

◆広告原稿

申込締切日	前月10日
原稿締切日	前月20日
原稿寸法	1P 天地260mm×左右180mm
	1/2P 天地125mm×左右180mm
原稿形態	ポジフィルム

*上記料金には、消費税は含まれておりません。断切広告は上記料金の10%増です。

*広告は、コート氏を使用して印刷いたします。

*表紙4のサイズは、天地260mm×左右180mmです。

◆広告申込先/カタログ・資料請求先

(社) 情報処理学会 学会誌編集係

〒108-0023 東京都港区芝浦3-16-20 芝浦前川ビル7F

E-mail:editj@ipsj.or.jp Tel(03)5484-3535 Fax(03)5484-3534

「情報処理」カタログ・資料請求用紙		Vol.	No.
掲載広告のカタログ・資料をご希望の方はこの用紙をFAXするか、またはE-mailでご請求ください。			
広告頁	会社名	製品名	希望項目
a-1:	b-1:	c-1:	d-1:
a-2:	b-2:	c-2:	d-2:
a-3:	b-3:	c-3:	d-3:
a-4:	b-4:	c-4:	d-4:
読者希望項目	1. カタログ 2. 価格表 3. 説明 4. 購入		
勤務先/学校名 部課/学科	e:		
所在地	f:		
ご芳名	g:	年齢h:	電話i:
あなたの勤務先に該当するものに○印を			
j:<業種>1.コンピュータ製造業 2.電気通信関係製造業 3.通信関係製造業 4.ソフトウェア業 5.官公庁 6.学校 7.その他			
k:<職種>1.研究・開発 2.SE・プログラマ 3.製造・生産 4.企画・調査 5.営業販売 6.総務・経理 7.会社役員 8.その他			